

メディアセンターの主な出来事（平成26年度）

メディアセンター本部

1. 山中資料センターにおける書庫新設と白楽サテライトライブラリーからの資料移転の計画策定

2013年度に決定した、白楽サテライトライブラリーの契約終了に伴う山中資料センターへの新書庫建設に向けて具体的な計画策定に着手した。2015年秋に予定される新書庫竣工後に開始される白楽からの資料移転については、現場担当者を中心としたタスクフォースを立ち上げ検討を進めた。

2. 新たな和書電子書籍実験への協力

4年間実施し2013年度に終了した電子学術書利用実験プロジェクトの次の展開として、米国の大手電子書籍販売会社OverDrive社の電子図書館システムの日本の大学図書館からの利用に関する検証を行う実証実験への協力を開始した。この実験は株式会社メディアドゥと提携の下で進められるもので、2014年11月にメディアドゥ社からプレスリリースがなされた。

三田メディアセンター

1. サービス改善のための利用者ニーズの把握

一般入館者を対象とした「ボードアンケート」や、ゼミ生を対象とした利用アンケート、フォーカスイタビュー等を行い利用者ニーズの把握につとめ、簡単にできるサービス改善は実施した。

2. オリエンテーション体制の見直し

既存のメニューに大学院生向けのメニューを加えたり、「引用・参考文献の基礎知識」を新設したり、実施時間を利用に合わせて変更したり、更にはレファレンス・カウンター横に「オリエンテーション・エリア」を新設したりしながら、有効かつニーズに合致したオリエンテーションの運用を目指し、参加者増を実現した。

3. 「貴重書活用授業」のプロモーション

企画展示以外に学生が貴重書を出会う絶好の機会となっている授業内閲覧を、「貴重書活用授業」と銘打って教員に積極的に広報することにより、活用促進を行った。またこの授業を始めとするスペシャルコレクション担当の貴重書アウトリーチ活動につき、OCLC (Online Computer Library Center) のWebページで広く紹介された。

4. Twitterの導入

広報手段の一つとしてTwitterを導入して、機動力のある広報の展開を開始した。

5. 白楽サテライトライブラリーの閉鎖と山中資料センター2号棟への移管準備

2016年4月に竣工する山中資料センター2号棟への白楽からの移管準備、およびそれに続く三田からの移管候補資料の選定、そして移管候補資料を中心にした目録遡及入力を実施した。同時に重複資料の除籍も積極的に行った。

6. 井筒俊彦文庫の運用変更

1992年に寄贈を受け北鎌倉の井筒邸で文庫として限定的利用に供していた故井筒教授の旧蔵書であるが、ご遺族の希望により慶應義塾と井筒家との間の敷地・施設の利用及び贈与契約を解消した。その結果旧蔵書だけを三田の研究室棟地下書庫に引き取った。

7. 学外協力活動

- ・関西学院創立125周年記念大学図書館特別展示『印刷技術と聖書～「読む」キリスト教への変容～』（10/8-14）の開催にあたり、貴重書6点の出品協力を行った。
- ・英国De Montfort Universityの研究プロジェクト「The Iron-Press: 3D scanning and reproduction of historical type」にグーテンベルク聖書慶應本のデジタル画像を提供した。

8. 出版物

- ・「知識の花弁」Vol.3 (2014.4), Vol.4 (2014.10)
- ・「慶應義塾の王朝物語—源氏物語を中心として」(第26回慶應義塾図書館貴重書展示会目録)

9. 主な寄贈

- ・「浦島太郎」[絵巻] 1軸 (江戸前期)
- ・「花鳥風月」[奈良絵本] 2帳 (江戸前期)
- ・折口信夫の遺墨 全7点
- ・「Books of hour」[illustrated manuscript on vellum] (14--)
- ・「Here begynneth the kalender of shepardes」(1556)
- ・「Office of the dead」[manuscript] (1425)

日吉メディアセンター

1. 館内施設の改修と再配置

- (1) 日吉図書館1階に新聞・雑誌コーナーを新設し、新着雑誌と新聞を集中配架した。スポーツ系雑誌11誌を新規に購読し、和雑誌を分野別配列に変更した。周囲には前面に仕切りのある閲覧席とベンチを配した。
- (2) 3階北閲覧室をフリーアクセス化し、ラウンジ風閲覧席6席を新設した。
- (3) 4階防犯カメラ増設(5台)、1階AVコーナー機器取り換え、2・4階吹き抜け周り手摺アクリルパネル補強、図書館棟外壁漏水補修、AVホール除湿機・空気殺菌機設置(各2台)等の工事を行った。

2. 情報リテラシー教育ならびに「学習相談」の推進

- (1) 「スタディサポート」デスクを担当する、レファレンス職員、学習相談員、ITCスチューデントヘルプ担当3者によるセミナーを集中的に行う「セミナウイーク」を実施した(12/4~19)。
- (2) 2015年度文学部設置科目「基礎情報処理Ⅱ(レポートの書き方)」への協力依頼があり、授業の準備を開始した。同時に、文学部図書

館・情報学専攻申請の学事振興資金「文学部初年次教育におけるアクティブラーニングスキルの修得科目と電子テキストの開発」が日吉メディアセンターとの共同研究として採択された。

- (3) 学習相談活動の広報力向上のため、日吉学生部との協力体制を築いた。

3. 協生館図書室

大学院生の貸出期間を30日間に延長し、貸出冊数上限は教員・大学院生ともに20冊に引き上げた。また、他研究科院生の入室に必要であった紹介状を廃止し、学生証による入室に変更した。

4. 書庫の有効活用

- (1) 日吉図書館図書の除籍に加え、平成25年度に山中資料センターから白楽サテライトライブラリーに移動した図書を対象に、塾内に一定数以上所蔵があるものを中心に除籍を行った。
- (2) 研究室図書の除籍について検討を開始した。

5. その他

- (1) 日吉図書館4階のキュービクルの利用を、教員に加え大学院生までに拡大した。
- (2) 協生館図書室、日吉図書館に各1台のセルフ貸出機を導入した(3月)。
- (3) 国立国会図書館デジタル化資料送信サービスを開始した(3月)。
- (4) 新たな頒布用ライブラリーバッグを作製した。

信濃町メディアセンター

1. 資料移動と再配置

書庫狭隘化対策として、2014年8月に山中資料センター、白楽サテライトライブラリー、信濃町地区間で資料移動を実施し、さらに館内の資料再配置を行った。主な再配置は以下のとおり。

- (1) くつろぎ閲覧エリアの新着棚に隣接する書庫1階に雑誌新着棚を設置し、合計約600誌の新着(未製本)雑誌へのアクセスを容易にして利用者の便宜を図った。

- (2) 白楽にあった富士川文庫ほか古医書群を信濃町地下集密書架に配置し、書架を施錠可能な特別仕様とした。

2. 教育IT化推進事業への協力

2年目を迎えた医学部2年生へのiPad配布と教育IT化推進事業の中で、日本語教科書のデジタルコンテンツ利用実験(第2期)を第2学年、第3学年の学生を対象に実施した。医書出版社3社から各1~2冊、計4冊のコンテンツを1年間にわたって無償で提供を受けた。

3. 古医書のデジタル撮影準備

日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築事業(国内とりまとめは国文学研究資料館)へ慶應義塾大学として参加することになったため、古医書のデジタル撮影準備、及び書誌調達の作業を開始した。

4. 施設改修(耐震補強工事)

2015年2月16日から3月31日の間、文科省の耐震補助による耐震補強工事を北里記念医学図書館棟(信濃町メディアセンター、及び北里講堂)に実施した。閲覧室と書庫棟の間に造られてあったスタッフルームは、この機会に解体した。

理工学メディアセンター

1. 館内整備

自習室、グループ学習室、セミナールームの案内サインを新設した。また、掲示板を増設し、入館ゲートのリプレースおよび閲覧机照明のLED化を実施した。

2. S-Circleによる企画

学生スタッフ(S-Circle)20名による相談窓口では、393名・372件の相談を受け付けた。またスタッフと共同で「サイエンス・カフェ」など、6件を企画・実施した。内訳は下記のとおり。

- 1) スタッフブログ(6月~1月)
- 2) サイエンス・カフェ 2回

(7月3日、11月10日)

- 3) リケジョワークショップ(7月8日)
- 4) <展示>矢上キャンパスbefore&after(9月22日~11月29日)
- 5) ビブリオバトル(10月29日)

なお、S-Circleについては26年度で活動を終了した。

3. 教員著作コレクション新設

理工学部創立75年を迎えることを機に、本館1階の慶應義塾関連図書コーナーに「教員著作コレクション」を新設した。理工学部教員の著作を集約・整理し、知的財産として後世に残すのが目的である。このコレクションは理工学分野だけでなく、教員の活動・趣味などに関する図書も含み、教員からの寄贈により構築していくことを原則とするが、退職している教員の著作は現状の配架場所から徐々に移すことで対応する。

4. ホームページ改訂

2015年2月にホームページをリニューアルした。スマートフォンでも見やすいよう、レスポンシブWebデザインとした。

5. 理工学部創立75年記念事業への協力

「慶應義塾大学理工学部75年史」の編纂事務局を務めた。史料のデジタル化、式典への協力、記念講演会「理工学部75年を振り返る—記念史の編纂から」(6月20日)の企画・運営を担当した。また、5月27日から7月5日まで、「理工学部創立75年記念企画 写真で辿る理工学部の歴史」を実施した。この企画展示では「慶應義塾大学理工学部75年史」も併せ、貴重な史料を創想館1階に展示した。

6. 卒業生からの寄贈

機械工学科10期生より展示ケース、福澤諭吉・藤原銀次郎関係資料の寄贈を受けた(5月14日)。

湘南藤沢メディアセンター

1. 施設・設備の更新

M館2階・3階のグループ学習室を改修し、室内

を透明アクリルの仕切りで小部屋に分けるとともに、壁面にホワイトボードを設置、机・椅子を入れ替えた。

地下のAVホールの映像・音響設備を9年ぶりに改修した。教卓の位置を前後入れ替え、出入りをしやすくした。

2. サービス・企画

読書推進・利用促進の一環として「ビブリオバトル」をメディアセンターとして初めて6月25日に開催し、好評を得た。10月22日には第2回を開催し、「塾」に紹介記事が掲載された。

2015年度の白楽サテライトライブラリー利用終了を控え、塾内重複資料の除籍やSFCへの移動等を進めた。

M館では、雑誌の配架順序に他キャンパスの基準とは異なる部分や別置してあるものがあり、わかりにくかったため、順序を入れ替えるとともに、今後の増加分を収めるためのスペースをつくった。また、2階北側と3階の書架見出しを見やすいものに変更した。

消費税増税と電子資料の値上がり、前年から続く円安傾向に対応するため、利用の少ない電子資料や洋雑誌の契約解除を進め、経費削減に努めた。その結果、図書資料費は赤字となったが、図書予算全体では予算内に収めることができた。

3. マルチメディア環境の充実

昨年開設したファブスペースを移転、拡張し、新型3Dプリンタ、3Dスキャナ、カッティングマシン、デジタル刺しゅうミシンを新たに加え、4月からサービスを開始した。5月20日(火)にはΩ11教室でパネルディスカッション『Fab is for everyone インターネット前提社会のデジタルファブリケーション』が開催された。9月にはタッチパネル式のディスカッションテーブルを設置し、利用説明・作品展示に活用した。

4. 塾外活動

看護医療学図書室が2014年6月から2年間、日本医学図書館協会関東地区会事務局を担当することになった。

薬学メディアセンター

1. 開館時間変更

- ・4月1日より、開講期の開館時間を変更した。
平日 8:45-20:00 → 8:45-21:00
土曜日 9:00-13:00 → 9:00-17:00

(芝共楽祭開催日は13:00閉館)

- ・開館時間延長に伴い、土曜日の業務体制を委託職員1名から2名に増員した。

2. 書庫縮小作業と関連事項

- ・薬学部の教育・研究力強化に向けた取り組みの一環としてのキャンパス内スペース有効活用に協力するため、3号館4階の薬学メディアセンター書庫のうち408号室部分(160m²/書架80面)を教員と博士課程学生の自習スペースに拠出し、書庫は407号室部分(53m²/書架28面)のみとなった。(4~12月)
- ・書庫に配架されていた資料について他地区メディアセンターとの重複調整、教員アンケート、除籍方針の検討のうえ ①407号室に集約配架(継続保存) ②山中資料センター第2棟へ移動 ③除籍・廃棄 の選定を行い、図書と雑誌約23,600冊を除籍・廃棄、雑誌約9,200冊を山中資料センター第2棟に保存するため搬出した。蔵書登録のない共立薬科大学卒業論文、学内刊行物は1号館地階の展示室に移管した。
- ・書庫縮小により学生証認証システムでの入庫管理ができなくなったため、4年生以上の学部生にもカウンターでのカードキー貸出を行うことにした。(1月)

3. 蔵書管理

- ・資料の配置を見直し、学位論文、大型本、文庫・新書コーナーの移設と、一部別置されていた一般図書の配置の一本化を行った。(11月)
- ・将来的な書庫狭隘化対策のため、資料保存・除籍方針を文書化した。(3月)
- ・共立薬科大学時代に受け入れた約2,400冊の書誌未登録の軽読用文庫本「ななえん文庫」について、重複、破損、今後利用の見込めないものを除籍し、保存するものは書誌登録をしてメイ

ンコレクションに組み入れる作業を数年にわたって行っていたが、すべての処理が終わり、「ななえん文庫」は解体した。(3月)

4. その他

グループ学習室に可動式ホワイトボード1台を設置した。(1月)

- ・入口利用案内, 開館カレンダー, 館内サインをリニューアルした。(3月)
- ・国立国会図書館デジタル化資料送信サービス利用登録(11月)
- ・国立国会図書館レファレンス協同データベース事業参加登録(3月)